

平成 22 年 7 月 14 日
気 象 庁

気象庁における熱中症に関する取り組みについて

気象庁は、大雨や暴風、地震、津波、火山噴火などの自然現象を常時観測するとともに、各種情報を発表することによって、災害の防止・軽減、交通安全の確保、産業の発展への寄与、国民生活の利便の向上、地球環境問題対策への寄与等を図っています。

平成 21 年度及び平成 22 年度における熱中症に関する取り組みは以下の通りです。

1. 気温の予報

日々の天気予報において、全国 171 の代表的な地域の最高気温等の情報を提供するとともに、民間気象事業者等が熱中症に関連したサービスに活用できるよう、気温等の観測・予測データを提供しています。

平成 22 年 5 月 27 日より、週間予報の最高・最低気温の予測範囲について、上方誤差と下方誤差に分けて表現する改善を行いました。

2. 天気予報による熱中症への注意を呼びかけ

予め定めた目安を超える高温が予想された場合に、毎日の天気予報で「〇〇県では高温が予想されるので、熱中症など健康管理に注意」との表現を用いて健康被害への注意の呼びかけを実施します（別紙 1）。なお、従来のおり、気温が高くなることやその状態が数日続くことが予想された場合、気象情報で注意を呼びかけます。

3. 気象庁ホームページでの熱中症に関する取り組みの紹介と普及啓発

気象庁ホームページで、気象庁の取り組みを紹介するとともに、より詳細な熱中症への理解促進のため、環境省熱中症サイトへのリンクを張り、熱中症対策についての普及啓発に努めています。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>

4. 異常天候早期警戒情報の提供（別添資料を参照）

社会経済活動に大きな影響を及ぼす天候の発生する可能性（かなりの高温やかなりの低温など）を、できるだけ早い段階で発表し、その天候によって受け

るリスクを軽減することを目的に、異常天候早期警戒情報を発表しています。

本情報は、情報発表日の5日後から14日後までを対象として、関東甲信など地方予報区の7日間平均気温が平年より「かなり高い」または「かなり低い」気温となる確率が30%を超えると予測した場合に、その確率や注意事項などを情報文として発表しています（別紙2）。また、情報の発表に関わらず、検討の元になる「確率予測資料」を毎週火・金曜日に気象庁ホームページで公表しています。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/soukei/index.html>

5. ヒートアイランド現象の観測・監視

気象庁では「ヒートアイランド対策大綱（平成16年3月策定）」に基づくヒートアイランド現象の観測・監視に取り組んでいます。

平成21年度は九州北部地方におけるヒートアイランド現象の特徴、及び関東地方の過去30年間ににおける土地利用変化による気温上昇への影響等について調査し、平成22年6月24日に「ヒートアイランド監視報告（平成21年）」として公表しました（別紙3）。

これらの成果は、気象庁ホームページの下記URLに掲載していますので、ご活用ください。

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/himr/index.html>

熱中症に注意を呼びかける天気予報の発表例

天気概況

平成 22 年 6 月 25 日 16 時 37 分 網走地方气象台発表

北海道付近には、26 日にかけて、日本の東から気圧の尾根が張り出す見込みです。

25 日 15 時の網走・北見・紋別地方の天気は、晴れています。

25 日夜から 26 日にかけて、晴れでしょう。

北見・紋別地方では、高温が予想されるため熱中症などの健康管理に注意して下さい。

「異常天候早期警戒情報」の発表例

高温に関する異常天候早期警戒情報（九州南部・奄美地方）

平成21年7月31日14時30分

鹿児島地方气象台 発表

要早期警戒

警戒期間 8月5日頃からの約1週間

対象地域 九州南部・奄美地方

警戒事項 かなりの高温（7日平均地域平年差+1.0℃以上）

確率 30%以上

今回の検討対象期間（8月5日から8月14日まで）において、九州南部・奄美地方では、8月5日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上となっています。また、この状態は8月8日頃からの1週間まで継続する見込みです。

農作物の管理等に注意して下さい。また、今後の気象情報に注意して下さい。

なお、九州南部・奄美地方では、今後次第に気温が高くなり、2週目にかけて気温の高い状態が続く見込みです。

「ヒートアイランド監視報告（平成 21 年）」の主な内容

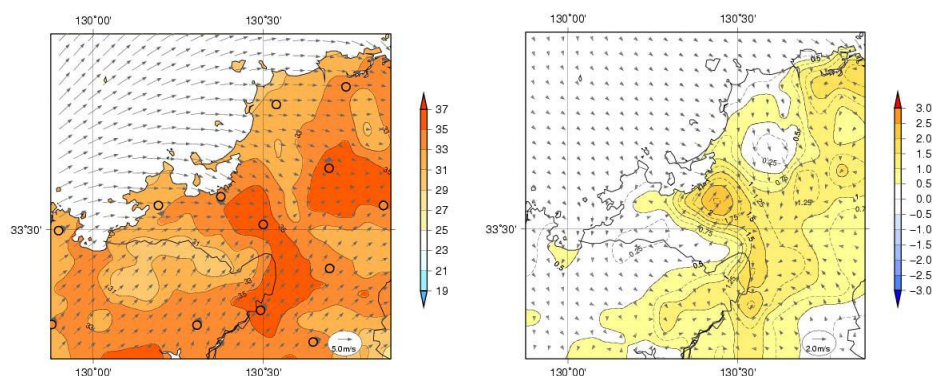


図 1 2008 年 7 月 25 日 15 時の福岡平野におけるシミュレーション結果

左図は気温と風の分布、右図は都市による気温上昇と風の変化（「都市がある場合」と「都市がない場合（都市領域を仮想的に草地に置換）」のシミュレーション結果の差）

この日は晴れて風が弱く、ヒートアイランド現象が顕著に現れる気象条件となり、最高気温は福岡で 36.5℃を観測した。都市気候モデルを用いたシミュレーション結果によれば、福岡平野では、2℃以上の都市化による気温上昇の影響が見られた。

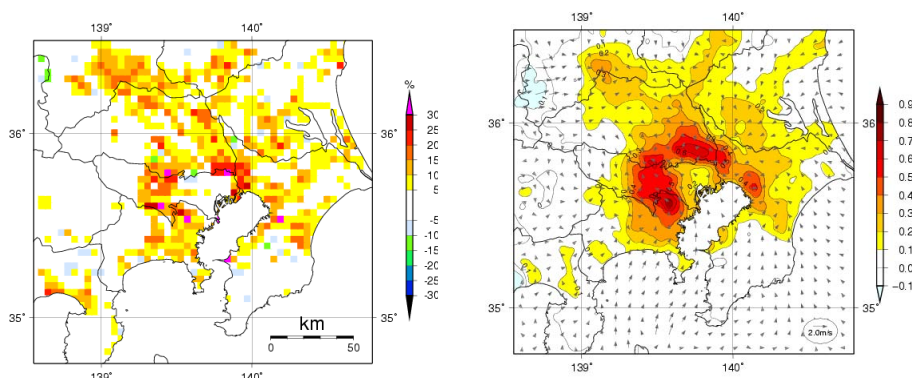


図 2 関東地方の過去約 30 年間の人工被覆率の変化量※（左図）と都市気候モデルで見積もられた人工被覆率の変化にともなう日平均気温の変化（右図）

人工被覆率の増加が顕著な都心周辺部で気温の変化が大きく（最大で約+0.6℃）、東京の都心部での変化は相対的に小さいことが確認された。

※土地利用の変化を示す。